

大学職員セミナー開催一覧(1999-2015、32回)

回次	主 題	会 期	参加状況
1	国・公・私立の殻を破って話し合おう —これからの大学をどう支えるか	1999.7.14～15	87名59校
2	国・公・私立の殻を破って話し合おう —これからの大学をどう支えるか part 2	1999.10.12～13	60名40校
3	大学職員の役割 —新しい発想の下での教育・研究支援から大学運営まで	2000.7.25～26	111名58校
4	存在意義のある大学へ —問われる職員の自己改革—	2001年7.23～25	123名73校
5	大学危機回避 モラールとミッションの再構築 —今、大学人がなすべき原理原則を考える	2003.1.24～25	143名62校
6	大学危機回避—今、職員がなすべきことを考える	2003.7.4～5	134名74校
7	大学危機回避 いま、大学人がなすべきこと —国立大学法人化 変わる大学、変わらない大学	2003.10.3～4	28名44校
8	大学改革 大学はどのように見られているか —国公立の垣根を越えて職員の責務と役割を考える	2004.1.23～24	65名40校
9	大学改革／昨日今日明日 —個性の輝きを演出するために—	2004.7.2～3	85名63校
10	高等教育のボーダレス化と留学生の受け入れ	2004.10.29～30	59名32校
11	これからの大学改革 —あらためて職員に問われる原理原則—	2005.1.21～22	50名31校
12	競争時代を支える大学の人材養成を考える	2005.7.1～2	47名37校
13	14 大学経営を活かす財務感覚	2005.10.21～22	53名37校
14	個性が輝く大学を創る企画力	2006.3.3～4	56名38校
15	輝く大学を創る—新しい職員の役割分担を考える—	2006.7.7～8	66名49校
16	激動の時代に輝く大学を創る —大学職員が担うべきこと—	2006.10.27～28	58名28校
17	激動の時代に輝く大学を創る —職員に求められるコミュニケーション力を磨く—	2007.1.26～27	22名18校
18	激動の時代に輝く大学を創る—職員の役割を問う— (第Ⅰ回 総合的支援体制の構築における職員の役割)	2007.9.14～15	43名22校
	激動の時代に輝く大学を創る—職員の役割を問う— (第Ⅱ回 大学のブランド戦略の構築における職員の役割)	2007.10.26～27	35名23校
	激動の時代に輝く大学を創る—職員の役割を問う— (第Ⅲ回 大学の社会的責任と危機管理体制の構築における職員の役割)	2007.12.7～8	45名30校
19	激動の時代に輝く大学を創る—職員の役割を問う— (第Ⅰ回 あらためて総合的支援体制のあり方と職員の役割を問う)	2008.7.11～12	29名23校
	激動の時代に輝く大学を創る—職員の役割を問う— (第Ⅱ回 FDとSD、教員と職員の連携を通して、職員の役割を問う)	2008.9.19～20	51名42校
	激動の時代に輝く大学を創る—職員の役割を問う— (第Ⅲ回 地域協力と国際化戦略、それぞれの大学における現状を通して、職員の役割を問う)	2008.11.14～15	51名37校
20	大学の教育力を支える職員の役割を問う	2009.7.10～11	52名40校
21	22 教員と職員の協働を可能にするSDのあり方	2009.9.25～26	50名37校
22	大学の新たな教育 —キャリア開発支援と職員の役割—	2010.7.9～10	51名40校
23	学生支援の高度化と職員の役割 —質保証の新たな展開の中で—	2010.11.26～27	32名25校
24	大学職員としてのアイデンティティ —大学職員の可能性を考える	2011.7.8～9	51名38校
25	大学職員としてのアイデンティティ —職員が変われば大学は変わる—	2011.12.2～3	57名41校
26	大学職員の挑戦と実践 —職員が変われば大学は変わるⅡ—	2012.7.13～14	37名27校
27	28 大学職員の挑戦と実践 —職員が変われば大学は変わるⅢ—	2012.12.7～8	43名30校
28	大学職員の挑戦と実践 —企画立案実践のできる大学職員を目指して—	2013.6.29～30	42名27校
29	大学職員の挑戦と実践—企画立案実践のできる大学職員を目指してⅡ—	2013.11.29～30	31名21校
30	31 大学職員の可能性—大学改革を牽引する職員を目指してⅠ—	2014.7.11～12	40名27校
31	32 大学職員の可能性—大学改革を牽引する職員を目指してⅡ—	2014.11.28～29	32名23校
32	33 大学職員の可能性—大学改革を牽引する職員を目指して—	2015.11.27～28	37名36校